

## 地域貢献活動事例報告書（その1）

様式 6

活動団体名	(公社)愛知建築士会半田支部	事業名	地域と協働のまちづくり事業
<p>●活動の概要</p> <p>建築士会の存在がよく知られていない為、今年度半田支部が創立60周年を迎えるにあたって、これを機に地域の中で広く携わっていくこととした。</p> <p>1. 建築士を知ってもらおう</p>			
●活動組織の概要		●他の団体・専門家との連携	●建築士の関わり
半田支部創立60周年記念事業特別委員会設立 その中の事業部会で対処する		NPO法人もやい	全て建築士
<p>●活動のきっかけ</p> <p>(公社)愛知建築士会半田支部が支部創立60周年を迎えたので周年事業を行うにあたり地域で建築士会の存在を知らない人が多い為、建築士会を知って頂くように、建築士としての専門性を生かしながら地域の団体と協働していくことを考えた。</p>			
<p>●活動の内容と成果</p> <p>知多半島で福祉団体のサポートを行っているNPO法人地域福祉サポート知多の登録59団体とはんだまちづくりひろばのボランティア登録108団体へアンケート調査を行った。 アンケートは建築士会を知っているか、建築士会と関わった場合、何を期待するか等です。 回答は23団体から有り建築士会を知らないと答えたのは無記入を含め15団体でした。この回答の中で半田支部の今年度事業として関わる事の出来そうな3団体へ出向きヒアリングを行った。</p> <p>NPO法人もやい(阿久比町) 訪問介護・地域生活交流等をしている団体で、施設は東京在住の方の古家を借りて運営している。今までに補助金頼りで施設の改修を行って来た。今回、使っていない農業用倉庫の一部屋をサロンとして改修出来たら良いとの要望があり、補助金を得られるようお手伝いすることにした。 資料提出の折、提案書に大喜びをされ、提案書が夢で終わらないよう実現に向けて努力したいとのことでした。</p>			
<p>●今後の課題</p> <p>補助金が有られるよう協力をして行く。</p>			
<p>●今後の計画</p> <p>計画の建物が古いので改修することを助言している。</p>			
報告書作成者	所属	半田支部創立60周年記念事業特別委員会委員長	氏名 岡澤宣弘

域貢献活動の資料・写真など（必要に応じて添付して下さい）



NPO法人もやいの本部施設



サロンとして利用計画の倉庫入口

地域貢献活動の資料・写真など（必要に応じて添付して下さい）



NPO法人もやい 倉庫



NPO 法人もやい 現況平面図

## ご提案

### ●「もやい」とは HPより抜粋

催合い…共同してことをなすこと

もーやー(名古屋弁)  
もーやい(名古屋弁)  
もーやいっこ(阿久比弁)

地域の安全装置であり続けたい「もやい」  
存続を未来への贈り物としたい「もやい」  
地域の寄り合い所の「もやい」

### ●離れ 改修工事

地域の寄り合いの場を提供

A案…厨房 喫茶室 和室を すべて工事する

B案…喫茶室 和室のみとする。  
厨房部分は 倉庫として 計画

C案…喫茶室のみとする。  
厨房部分 和室を 倉庫として計画

## イメージ

### ● 室内 中央のカウンター

軽食など軽い食事ができる。  
一人で訪れても 気兼ねなく 利用できる

### ●アール壁

伝言壁 最新情報、活動報告などの場  
話しの話題 きっかけとなる

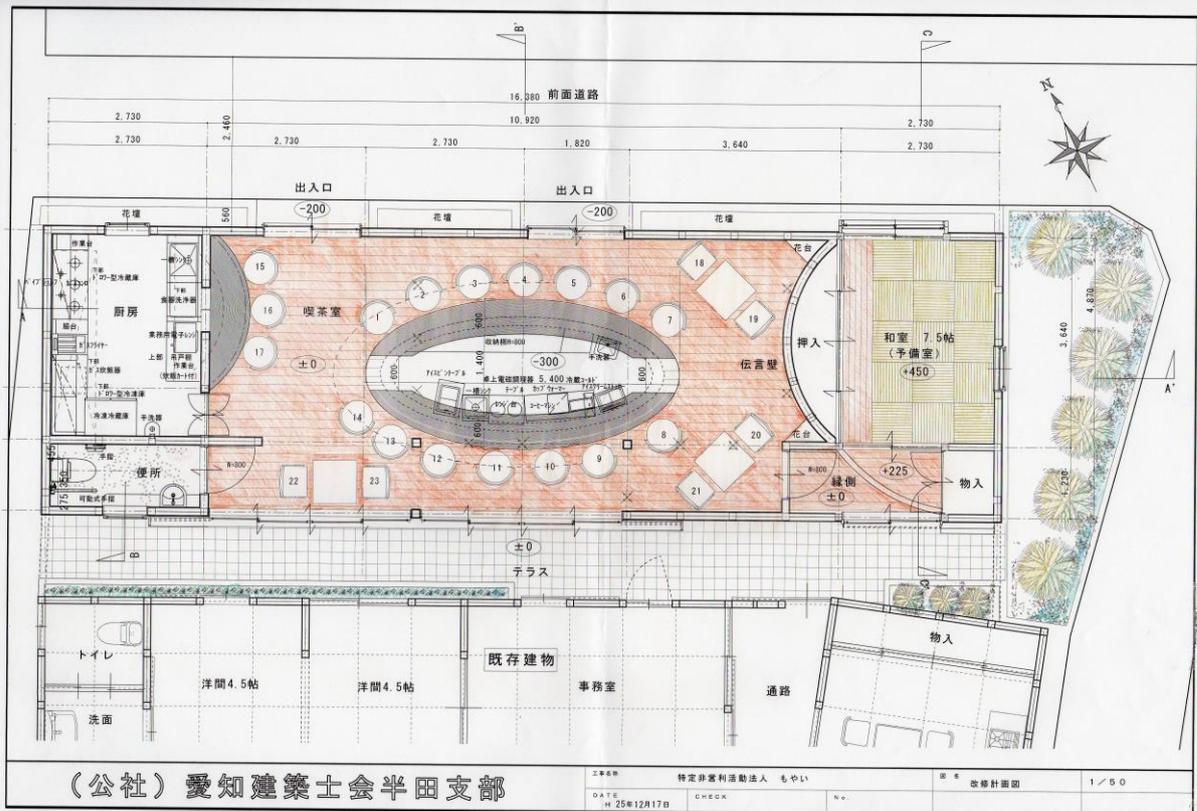
### ●予備室(和室)

目的を持っての話や お茶会用にも利用

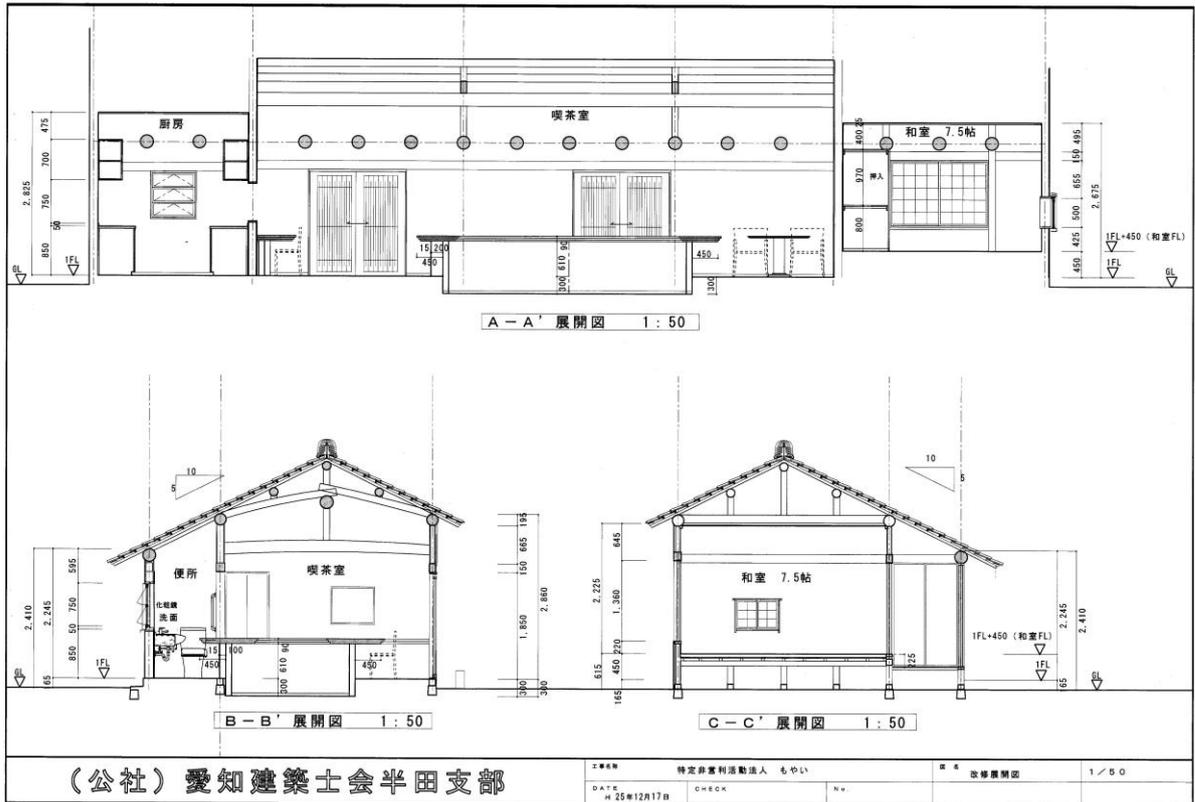
### ●花台 花壇

季節の花をかざり 四季を愛でる

## 企画概要



## 提案平面図



提案断面図



提案立面図

## 地域貢献活動事例報告書（その2）

様式 6

<b>活動団体名</b>	(公社)愛知建築士会半田支部	<b>事業名</b>	地域と協働のまちづくり事業
<b>●活動の概要</b>			
<p>建築士会の存在がよく知られていない為、今年度半田支部が創立60周年を迎えるにあたって、これを機に地域の中で広く携わっていくこととした。</p> <p><b>2. 建築士になってもらおう</b></p>			
<b>●活動組織の概要</b>	<b>●他の団体・専門家との連携</b>	<b>●建築士の関わり</b>	
半田支部創立60周年記念事業特別委員会設立 その中の事業部会で対処する	半田市立成岩中学校	全て建築士	
<b>●活動のきっかけ</b>			
<p>(公社)愛知建築士会半田支部が支部創立60周年を迎えたので周年事業を行うにあたり地域で建築士会の存在を知らない人が多い為、建築士会を知って頂くように、建築士としての専門性を生かしながら地域の団体と協働していくことを考えた。</p>			
<b>●活動の内容と成果</b>			
<p>半田市立成岩中学校2年生を対象に職業講話を実施 冒頭、建築士はどのような仕事をしているか答えてもらったが多くの生徒はよく知らなかった。 これから将来の進路を考える年ごろなので、建築士はどのような仕事をしているかをパワーポイントを使って説明した。夢を持って将来の建築士を目指してもらいたいためである。</p> <p>建築士がどのような仕事に従事しているか。建物がどのように計画され、完成するかを知ってもらうことにより、建築士への夢を描いてもらえたようです。</p>			
<b>●今後の課題</b>			
半田市以外でもこの様な取り組みが有れば協力していきたい。			
<b>●今後の計画</b>			
今後も継続していきたい。			
<b>報告書作成者</b>	<b>所属</b>	<b>氏名</b>	
	半田支部創立60周年記念事業特別委員会委員長	岡澤宣弘	

地域貢献活動の資料・写真など（必要に応じて添付して下さい）



半田市立成岩中学校2年生、講義風景



半田市立成岩中学校2年生、講義風景

## 地域貢献活動事例報告書（その3）

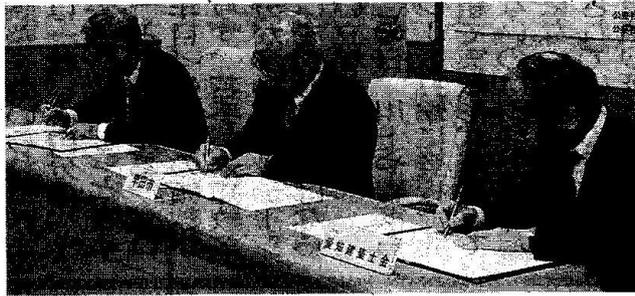
様式 6

活動団体名	(公社)愛知建築士会半田支部	事業名	地域と協働のまちづくり事業
<p>●活動の概要</p> <p>建築士会の存在がよく知られていない為、今年度半田支部が創立60周年を迎えるにあたって、これを機に地域の中で広く携わっていくこととした。</p> <p>1. 建築士会に入ってもらおう 「地震災害時の応急対策活動の協力に関する協定書」調印式</p>			
●活動組織の概要	半田支部創立60周年記念事業特別委員会設立 その中の事業部会で対処する	●他の団体・専門家との連携 知多半島5市5町の行政 愛知県建築士事務所協会知多支部 応急危険度判定士	●建築士の関わり 全て建築士
<p>●活動のきっかけ</p> <p>(公社)愛知建築士会半田支部が支部創立60周年を迎えたので周年事業を行うにあたり地域で建築士会の存在を知らない人が多い為、建築士会を知って頂くように、建築士としての専門性を生かしながら地域の団体と協働していくことを考えた。</p>			
<p>●活動の内容と成果</p> <p>応急危険度判定士は県と個人の繋がりが少なく、震災時に活動できるのが疑問である。 今回、知多半島5市5町の防災会議に建築士会も協議に参加することが出来ました。 会議はそれぞれの自治体の考えが有るなかで難しい部分もありましたが、支部創立60周年式典に合わせ、協定書の調印式を行う事をめざし協力をお願いした。</p> <p>協定内容は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 災害直後の避難施設への応急危険度判定士による安全確認</li> <li>2 震度6弱以上での応急危険度判定士の自動参集及び住宅等の応急危険度判定</li> <li>3 災害後、建築物の復旧に関する相談</li> </ol> <p>以上の内容であるが、それとは別に目的が有った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応急危険度判定士の多くは建築士会に入っていないので入会を求めるチャンスである。</li> <li>・ 建築士会の会員で応急危険度判定士に登録していない会員も多く、地域の建築士の使命として登録を求めたい。</li> <li>・ 県下で先陣を切る事になる今回の調印で、今後各支部にも同調して頂き、広く横のつながりを持ちたい。</li> </ul> <p>マニュアル作りに入るが、半田支部の活動によって会員増強をねらう。 調印式は肅々と行われプレス発表も出来た。</p>			
<p>●今後の課題</p> <p>具体的なマニュアル作りに入るが、5市5町それぞれの環境条件等違いがある中、来たるべき災害時に混乱のないものとしたい。</p>			
<p>●今後の計画</p> <p>具体的な支援体制を整備する中、応急危険度判定士の名簿を利用しながら非会員の応急危険度判定士には入会を、会員には、応急危険度判定士の登録を勧めたい。</p>			
報告書作成者	所属 半田支部創立60周年記念事業特別委員会委員長	氏名	岡澤宣弘

# 避難所の危険度判定

## 半島10市町 建築士会と協定

知多半島五市五町は二十一日、それぞれ県建築士事務所協会、愛



協定書に調印する榊原純夫半田市長（左）ら  
半田市広小路町で

知建築士会との間で、地震災害時に建築士に避難所の危険度判定などをしてもらえる内容の協定を結んだ。愛知建築士会半田支部が創立六十周年を記念して十市町に持ち掛け、実現した。県内初という。避難所の危険度判定はこれまで、それぞれの市町職員が担当していた。建築士への協力要請も自治体側が電話をかけて応援を求めるところになっていた。

協定では、震度6弱以上の地震が発生した場合、建築士が自主的に集まって自治体に協力することや、建築物の復旧に関する相談業務に協力することも定めた。今後この協定を基に、具体的建築士の動きを定めたマニュアルを作る。

半田市広小路町のクラシティブンで調印式があり、十市町の首長らと建築士会の代表ら十三人が出席した。鈴木淳雄東海市長は「知多半島には二千八百の避難所がある。建築士の協力を得てさらに安全な知多地域にしたい」、愛知建築士会の佐藤東亜男会長は「有事の場合は、県内外の建築士からも応援を求める仕組みをつくりたい」と述べた。

（山野舞子）

地域貢献活動の資料・写真など（必要に応じて添付して下さい）



調印式会場

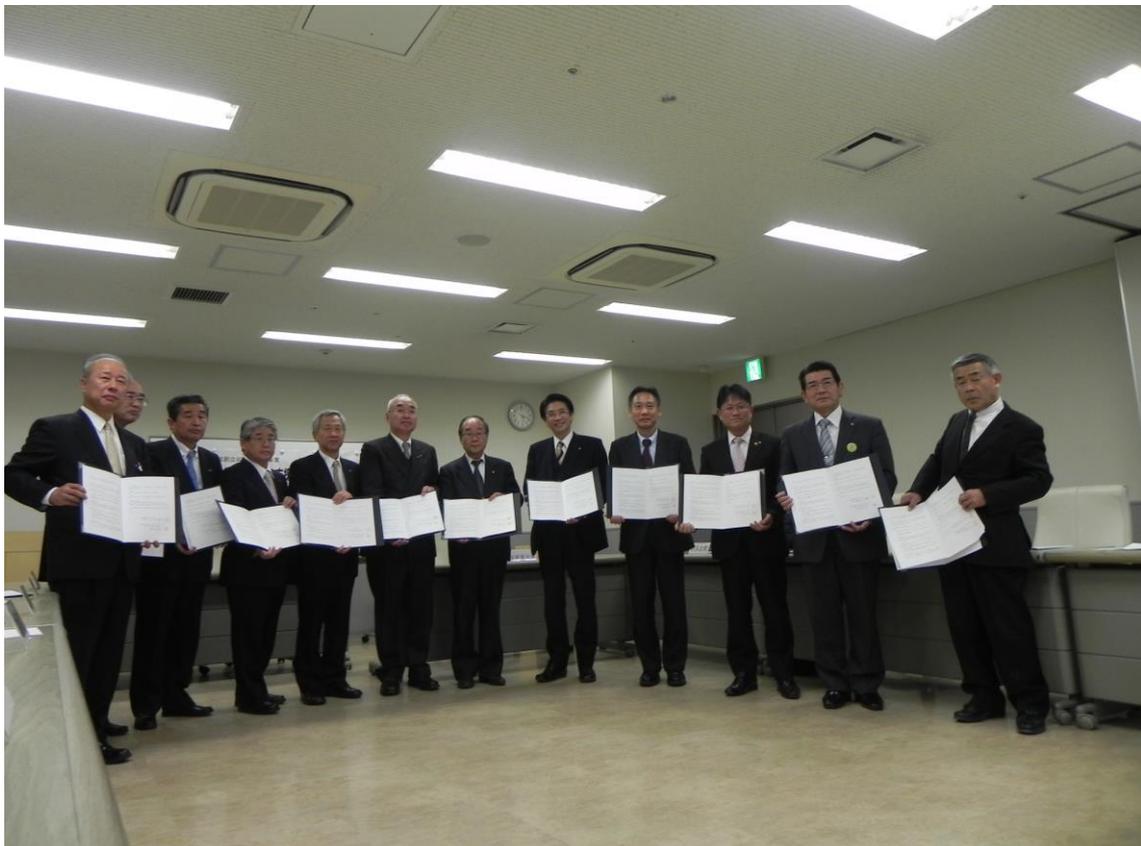


会長挨拶

地域貢献活動の資料・写真など（必要に応じて添付して下さい）



協定書調印



協定書披露